

公立大学法人大分県立芸術文化短期大学第3期中期目標について

第2期（平成24～29年度）の主な評価

■ 各事業年度の全体評価（評価委員会）

- ・全体として年度計画を順調に実施
- ・教育研究等の質の向上について、特筆すべき進行状況

■ 主な評価理由（成果）

- ・国際文化学科の廃止と国際総合学科の新設、コース再編等により魅力ある大学づくりに取り組み、学生を確保
（29年度入試：学科志願者数（903人）過去最高を更新）
- ・キャリア教育や資格取得支援の拡充などにより、26年度以降、就職率、進学率ともに90%以上
（28年度卒業生：就職率（98.4%）過去最高を更新）
- ・生涯学習としての専門的な公開講座、学生主体による展覧会や演奏会の開催、サービ斯拉ーニングの実施等、地域社会への貢献に向けた取り組みを充実強化

第3期中期目標素案に対する意見

■ 県民の意見（パブリックコメント）

- ・「面白い」人材をこれからも県内にたくさん輩出することを期待
- ・今後さらに芸術と文化を地域に広める役割をしっかりと果たしてほしい

■ 評価委員会委員意見

- ・「創造県おおいた」の人材育成の最初の現場として、大きな役割を果たすこと
- ・県内企業の付加価値づくりに向けて、学生のアイデアやデザインを活用するなど、積極的に関与してほしい
- ・第3期においても積極的な地域貢献への展開を
- ・演奏会等により、リニューアルキャンパスを県民へ開放

第3期中期目標 -平成30～35年度（2018～2023年度）-

■ 第3期中期目標のコンセプト

県立美術館(OPAM)の開館、県内各地でのアートプロジェクトの広がりといった新たな動き、今後のキャンパス整備の完成を踏まえ、芸術系と人文系の学科を併設する全国唯一の公立短期大学として、大分県の地方創生に資する人材の育成、地域への貢献を積極的に展開

- ・芸術系と人文系の学科の併設を生かした職業人の育成
- ・県立美術館やリニューアルキャンパスを活用、クリエイティブ産業と連携した教育機能の充実強化
- ・地方創生に資する地域貢献

■ 第3期中期目標のポイント

目的 芸術及び文化に関する専門の学芸の教授研究を通じて、幅広い教養及び優れた技能を有し、実践・応用する人間性豊かな人材を育成し、もって大分県の芸術文化の振興及び地域社会の発展といった「創造県おおいた」の推進に寄与する。

1 地方創生を支える職業人の育成

- ・芸術系学科と人文系学科からなる大学の特色を生かして学科横断的な教育を展開し、地域づくりや産業の発展に、芸術的な感覚や知識等も生かして寄与する職業人を育成
- ・サービ斯拉ーニングの更なる展開、インターンシップの活用を進め、職業現場を重視した実践的な教育を充実

2 教育・研究機能の充実強化

- ・アートマネジメントプログラムの展開をはじめ、大学の特色を生かして地域課題にも応じた適切なカリキュラムやコースのあり方の検討を行い、教育機能を充実
- ・学生へ丁寧な修学支援を行い、職業人として若しくは進学して新たな道に踏み出せるよう進路を指導し、職域の拡大や学修意欲の向上を図ることで、高い就職率・進学率を達成
- ・高大連携による人材の育成や学生の確保に向けて、芸術緑丘高校との連携を強化
- ・産業の発展に資するなど、質の高い研究活動を推進するとともに、作品制作・演奏などの創造的な表現活動を展開

3 積極的な地域貢献の展開

- ・地域社会のニーズに応え、地域に開かれた大学として、生涯学習講座の充実など、県民に広く学習機会を提供
- ・県立美術館や県立総合文化センターとの連携をはじめ、地域社会、自治体、他の教育機関、企業・NPO法人等との連携を推進し、県民の芸術文化の向上や地域づくり、産業の発展に貢献

4 業務運営の改善・効率化

- ・理事長・学長のリーダーシップを発揮できるようマネジメント機能を強化するとともに、機動的・戦略的な大学運営に向けた教員、職員それぞれの資質・能力の向上と教員・職員の連携体制を確保

5 施設の整備・活用

- ・キャンパス整備を着実に実行し、完了させるとともに、施設・設備を活用